

国際ロータリー第2580地区（東京・沖縄）

東京武蔵村山ロータリークラブ

Tokyo-Musashimurayama Rotary Club

週報 No.1705

2006-07年度 国際ロータリーテーマ 「率先しよう」

RI会長 ウィリアム・B・ボイド

国際ロータリー 第2580地区

東京武蔵村山ロータリークラブテーマ

「本来無東西一心は一つ」

2006-07年度ガバナー 小澤 秀



「優しさを」

第35代クラブ会長 小野寺 一昭

本日の例会
全員クラブ協議会

第1706回
例会
2007.4.4

次回例会案内【4月11日(水)】
卓話「劇場支配人の楽屋話」
日生劇場元支配人 藤本 淳三 様

1705回例会報告（2007年3月28日）

司会 比留間 源一郎 SAA委員

点 鐘 （比留間 重次 副会長）

齊 唱 我等の生業

来 客 （比留間 重次 副会長）

卓話講師 竹本 訓夫 様



会務報告 （比留間 重次 副会長）

- ロータリー地区補助金決定の連絡 150,000円
- 「ロータリーフェローズ東京」の案内が届いています。
4月27日（金）6：30～ 如水会館 〆切 4月10日
- 米山記念奨学会より表彰状、感謝状が届いています。
波多野会員
- 米山記念館より
 - ・館報9号を頂きました。
 - ・春季例祭の案内 4月28日（土）14：00～
- 東村山RCより40周年記念例会出席礼状が届いています。
- 立川青年会議所より「協賛のお願い」が届いています。
「国際多文化芝生フェスティバル」 5月13日（日）
- 「心の東京革命」会報第18号が届いています。
- 社会福祉協議会より機関誌「こもれび」を頂きました。

出席報告 （田代 純則 出席委員）

会員数	出席者数	出席率	前々回出席率修正
34名	25名	82.35%	85.29→88.24%

○メーカー（第1703回例会）
石井 賢司 会員（東大和RC）

幹事報告 （芦川 征史 幹事）



- 例会変更
 - ・東城北RC 4月20日→通常例会
5月18日→夜間例会（レディースナイト）
 - ・臨海東RC 4月13日→13～15日親睦旅行に振替

委員会報告

- 峯岸一郎青少年交換委員会副委員長
 - ・次年度になりますが東京四谷RCがホストになります地区協議会が開催されます。4月12日（木）になりますが、出席義務者には後日連絡致します。
 - ・タイからの留学生クワンさんがこの春休みにジャパンツアー（10日間のバス旅行）に出発致しました。費用の10万円の内、半分はクラブ負担、残りの半分を自己負担となっていますが、それに含まれてない費用やこま遣いが少し不足しています。そこで申し訳ありませんが皆さんにカンパをお願いしたいと思っておりますので一人千円以上でよろしくお願ひします。

◇ 創立 1972年7月8日 ◇ 承認 1972年7月20日
 ◇ スポンサークラブ 東京立川ロータリークラブ
 ◎ 会長 小野寺 一昭 ◎ 幹事 芦川 征史
 ○ 副会長 比留間 重次 ○ 副幹事 峯岸 一郎
 □ 会報雑誌委員長 野島 征 副委員長 原田 友義
 委員 小林均 網代雅男 内野均 後藤正次

◇ 例会場 西武信用金庫・村山支店2階
 〒208-0004 武蔵村山市本町2-91-1
 ◇ 例会日 毎週水曜日 12:30～13:30
 ◇ クラブ事務局
 〒208-0004 武蔵村山市本町2-91-1
 TEL 042(520)3251 FAX 042(520)3252
 Eメールアドレス t-mmrc@crest.ocn.ne.jp

今日は最近、耳にした言葉で大変関心を持った言葉を紹介したいと思います。それは「鈍感力」という言葉です。作家の渡辺淳一さんによる言葉で2月7日に本が発売されました。鈍感という言葉は物を感じるのが鈍いという意味で敏感の反対語になります。この悪い意味での鈍感という言葉に力をつけて「鈍感力」という言葉を作ったそうです。今の複雑な世の中でタフに生きてゆくには、この鈍感であるということがひとつの能力、力になるということだと思います。その間も新聞のスポーツ欄で「このピッチャーは鈍感力がある」という記事を読んだことがあります。これはそのピッチャーを賞めた言葉で、多少打たれたりしてもそれに動じないだけの鈍感さがあった方が成功するという意味でした。最後に渡辺淳一さんのオフィシャルBlogの一節を紹介したいと思います。『これまで鈍感ということ、なにか悪いイメージのものと思われがちでしたがそんなことはありません。ひりひりと傷つき易い鋭く敏感なものより、強いことではへこたれない、鋭く逞しいものこそ、現代を生き抜く力であり、知恵でもあるのです。鈍感なのは生きていくうえで、強い力になる、ということです。』

講演題目：マムート銅鉱山の開発

講師紹介 竹本 訓夫 様 一橋大学卒業 元三菱金属(株)勤務 マムート鉱山開発に参

1、マムート鉱山がある場所 北ボルネオ(東マレーシア)
① サバ州の概況(州都コタキナバル) 北緯5度でほぼ赤道直下
成田13:30-(MH81)-コタキナバル18:15 時差1時間
飛行時間5時間45分 人口:330万人、コタキナバル35万人(不法滞在者を入れると50万人)カタザン族41%、中国人10%、バジャウ族13%、マレー人12%、外国人24%、産業:カタザン(農業 野菜・パームオイル・カカオ・ゴム、ココナッツ・コーヒー・コショウ)、中国人(商業・公務員・医者・弁護士)バジャウ(漁業) 輸出品目:パームオイル40.2%、原油21.9%、合板・製材・板10.3% 宗教:イスラム国家であるがイスラム教40%、仏教・道教・キリスト教60%

② マムート鉱山への道 コタキナバル→マムート6~7時間(現在3時間)
コタキナバル(35Km)-タンパルリ(45Km)-キナバル山登山口(標高1500m)-(25Km)-ラナウ(標高600m)-(15Km)-マムート鉱山(標高1300m)
マムート鉱山(115km)-ウスカン港(注)キナバル山:東南アジア最高峰標高4100m 1977~1981年 前田道路による円借款100億円でタンパルリ-ラナウ70Km新道路完成

2、マムート鉱山の開山までの経緯
① 1963年~1972年マムート鉱山の発見から採掘権獲得
1963年~1965年 国連特別基金によるサバ州での地質調査 1965年 ロイター通信「キナバル山付近に銅大鉱床発見」 1967年海外鉱物資源開発(株)が非鉄各社を代表し国際テNDERに参加し落札 1968年 海外鉱物資源開発(株)が政府補助金を得て密林伐採・道路建設・探鉱の実施 1969年 現地にOMRD-SABA社設立(資本金5000千M\$:海産51%、現地49%) 日本側にマムート鉱山開発社設立(三菱金属33%、日本鉱業17.5%、住友金属13%、昭和鉱業10.5%、古河工業8% 日鉄鉱業5%) 1971年~1972年 鉱山開発条件につき連邦政府 並びにサバ州政府との折衝したが難航①ロイヤルティー問題、②現地製錬所建設

② 1973年~1975年マムート鉱山開山準備
1973年・輸出入銀行融資70%、市中協調融資(三菱銀行他14行)30%によるドル建て起業資金融資92,551千US\$ (円換算270億円・現在価値300億円)・タンパルリ→ラナウ70Km並びにラナウ→ウスカン100Km間の道路4.5m幅を7.3mに拡張し、砂利敷き込み、排水溝整備。ラナウ橋35m・コタベル橋48m・アペイ橋160mの新設・銅精鉱輸出のためのウスカンの港建設・20T以下の貨物40,000Tはコタキナバル港よりトラック輸送 重機類12,000T(穿孔機4台、ホイローラダー6台、50Tダンプトラック36台、ブルドーザー11台、発電機5000k4台)はウスカンに近いコタベルより通常自動車で片道6~7時間で行けるころを片道7日~10日かかるノロノロ運搬
選鉱場、重機修理工場、大型重機分解場、屋外洗車場、工作修理工場、木工場、油脂庫、爆薬混合工場、鉱山事務所、更衣室、休憩場、技術訓練場等建設・福祉設備(標高750m、山許から10km)日本人社宅40戸、熟練工社宅216戸、診療所、クラブ、上下水道設備、(標高1450m、山許から2km) オフィ サラヤ50室、熟練工寮240人分、一般125人分、診療所・日本人100人の派遣、現地人1200人の採用と技術訓練・銅体を露出させるための初期剥土工事15,000千トン・操業計画の作成 試錐探鉱15620mで埋蔵鉱量1億7800万トン(銅品位0.476% 銅量847000T) 確認、探掘対象鉱量8300万トン(銅品位0.59% 銅量489700T)、ズリ9350万トンの確認、探掘対象鉱量60万トン1年×14年=8400万トン探掘期間14年、1989年閉山 銅精鉱180万トン(銅品位25% 銅量45000T)、選鉱廃滓81万2000トン ピットのベンチの高さ12m、傾斜30度、直径1200mのオープンピット形式の採用、ピット0mレベルから上部276m まで探掘対象鉱量は4100万トン、ピット0mレベルから下部144 mまで探掘対象鉱量は4200万トン

3、マムート鉱山開山から閉山までの経緯
① マムート鉱山銅鉱石から日本で電気銅ができるまで
ピットのベンチでの穿孔機4台による穿孔→ANFO・ダイナマイト・雷管による爆破→ブルドーザ11台とホイローラダー6台による積み込み→50Tダンプトラック36台による選鉱場まで運搬→ジャイロトリークローシャーに給鉱(銅品位0.59%)→破碎70mm以下→ゴーンクラッシャーによる破碎→ロッドミル・ボールミルによる破碎200メッシュ以下 給鉱486000トン/月→浮選:選鉱剤の泡に付着した銅分の分解→銅精鉱104000トン/月(銅品位25%)→毎日50~60台の8トントラック輸送→115km離れたウスカン港→1船8000トン船積み→日本の製錬所→反射炉→転炉→精製炉→電解工場→電気銅(銅品位99.999%) 浮選→選鉱廃滓475600トン/月→ハイライン15.5km、高低差910m→ルハンダム

② 1975年~1987年操業開始から日本側撤退まで
1975年5月 開山式 操業開始 選鉱廃滓パイプライン破損と公害問題発生による操業ストップ 選鉱廃滓パイプライン方式よりドロフトンク方式に切り替え 1978年 4年間の累積▲115億円(現在価値▲550億円) 1977年 日本側からの融資金(輸出入銀行融資・市中協調融資)の元利返済積予 ドロフトンク建設資金・公害補償金・赤字運転資金等のため追加融資82億円 総投資額270億円→360億(現在価値1700億円)に増加 日本側からの融資金(輸出入銀行融資・市中協調融資)の元利返済積予 香港上海銀行から動産である重機類を担保にした当座貸越の増加、日商若井ユーズのハネ金利18%(当時の長期金利9%の2倍) 地元資材購入業者(テールセルオイル、重機車両部品のトラックタイヤ)の支払延期 1979年 ソ連アフガニスタン 侵攻並びにイランイスラム革命により銅価は1977年の56.21 セント→1979年の99.15セントへ、金が1977年162.95ドル→1980年580.23ドルへと暴騰し、操業は一転黒字化した。 1980年 サバ州政府資本参加による増資5000千M\$(円換算6億円 過小資本)→3000千M\$(円換算36億円 それでも過小資本) 海産51%、サバ開発公団49% 1981年 その後は銅価低迷で 赤字継続 1986年末・累積▲133百万M\$(日本円換算▲133億円 現在価値▲640億円)・ロイヤリティー1979年売上高に対し18.9%、平均すると10%で支払額総額は161百万M\$(円換算 現在価値780億円)の巨額で累積を上回る。・US\$建て融資金 総額127826千US\$(360億円)は1985年のプラザ合意の影響による急激な円高1984年247.21円/\$→1987年145.71円/\$で日本円で▲131億円(円現在価値630億円)の巨額差損の発生 1987年1月 日本側撤退 債権放棄▲89億円・為替差損▲131億円 計220億円(現在価値▲1069億円) 出資各社で損失負担 現地側に経営権を譲渡した。現地Mamut Copper Mining 社 発足

③ 1987年~1999年現地経営移管から閉山まで
1987年 銅価高騰 一点黒字化
・Mamut Copper Mining 社日本の再建放棄分に相当する金額を増資(資本金30,000M\$→135000千M\$) Mamut Copper Mining 社100%・借金の棒引きにより身軽になったこと・1987年以降再び銅価がイラク軍クウェート侵攻並びに湾岸戦争により1986年62.63セント→133.01セントへと暴騰したこと。・州政府と交渉しロイヤルティーを2.5%固定に大きく減額。銅価の高騰並びにロイヤルティーの減額により深部に新規探鉱を実施し、探掘対象鉱量8300万トンより1億3390トンに増加、山命が1989年より2000年に延びたこと。・当初資本参加の華僑の有力者及びそこを提携していた商社に対する輸出入協力費並びにこの華僑有力者が独占していた操業用資材輸送の取扱手数料を排除できたこと 即ち、操業当初からの華僑の(眠り金)裏金を全て排除できたこと。・公害補償問題も会社現地化により沈静化したこと

4、マムート鉱山の総括と現地への貢献
1975年から24年間に渡り244万Tの銅精鉱(銅品位24%:銅量582000T)を生産、メタル量で銅が582,000T、金は44T、銀301Tを生産した。・ロイヤリティーの支払総額206百万M(円換算額:206億円 現在価値1000億円)・新技術の移転、経営管理の現地移転・サバ州並びにコタキナバルの著しい人口増加、コナキタバル・ラナウの町並みの近代化、高速道路と自動車の増加・雇用創出(従業員1200人、家族を含めると6000人)・輸送道路の建設・日本の製錬所でマムート銅精鉱は精錬条件が良く特に金の品位が高く精錬収益への多大な貢献をした。日本の銅製錬所収入=(条件製錬費と実績製錬費との差の製錬費収入)+(条件実収入と実績実収入率との差の実収入)

5、最近の銅価高騰と非鉄会社の株価
銅は平成15年の230,000円より平成18年に過去最高値980000円へと暴騰しているが、北京オリンピックが過ぎれば正常水準の400000~500000円に戻る物と思われる。①世界最大の銅産出国チリで2007年から2009年にかけてチリの銅公社が大規模な投資を行い銅の増産を進めていること。②世界的な非鉄メジャーが日本の製錬所に対し製錬費の引き下げを要請、本年度より銅価スライド条項が撤廃されること。中国の鉱石買い漁り、製錬条件の悪化 ③日本の製錬所が受け取る製錬費はドル建てにつき円高になると製錬費が目減りすること ④日本の非鉄会社は電子材料(シリコンウエハー、電解銅箔、リードフレーム等)のウエイトが大きく、昨今の半導体DRAMの落ち込みの影響を受ける危険があること

ニコニコBOX (清水 高彦 親睦副委員長)

中申彦会員⇒昨日のFRCのゴルフコンペで準優勝でした。優勝者とネット同スコアでしたが、年齢で負けました。しかし自分としては満足なスコアでした。

藤野豊会員⇒誕生日を祝っていただき有難うございます。
◆ 今回計8,000円 累計1,217,000円